

# 校長室だより

令和8年1月15日(木)  
第 37 号  
十日町市立中条中学校校長室

1月16日(金)1,2年生スキー授業のため、  
15日(木)に発行します。

## 生徒会リーダー研修での校長講話から

令和8年度生徒会の新三役、総務、専門委員長を対象にリーダー研修を開始しました。1月9日(金)に第1回目を行いました。その時に校長講話の時間をいただきました。その内容を少し紹介します。リーダー研修だけでなく、生徒に話をする際に私はよくビジネス関係の情報を検索します。これからの社会を担う生徒に役に立つ情報が多いと感じているからです。

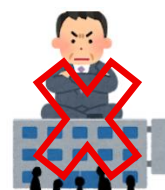


リーダーに限らず他の生徒には、これから社会を生き抜くためのアドバイスとして、保護者の皆様には家庭での話題として読んでいただければ幸いです。

### リーダーとは(リーダーに必要な資質とは)

みんなをまとめる人ではなく「みんなが力を出せるようにする人」  
リーダーは「光を当てる人、影を作らない人」

今年のリーダー研修会の冒頭で、私なりのリーダー論について話しました。リーダーと言うと、「影響力があって、メンバーへ説明し、自身のスキルをベースに指示する＝まとめる」と思われています。(そう思っている人が多いかもしれませんが)これはメンバーにとって受け身になりがちであるというマイナス面もあります。



今求められるリーダー像は、私は「サーバントリーダーシップ」だと思います。「サーバント」とは元々「召使い、仕える人」という意味です。「リーダー＝みんなを助ける人」という考え方で、命令するよりも、仲間のために働くことを大切にするリーダーを指します。具体的な姿として、

#### みんなの声を聞く

→ 自分の意見だけでなく、仲間の気持ちや考えを大事にする。

#### 助けることがリーダーの仕事

→ 困っている人をサポートして、みんなが力を出せるようにする。

#### チーム全体の成長を考える

→ 自分だけでなく、みんなが成長できるように工夫する。



つまり、「メンバーの一人一人を大切にし、一人一人に光が当たるように」を目指してほしいのです。そのために付けてほしい力は以下の6つです。

- 1 責任感 → チームの目標に責任を持つ
- 2 思いやり(協調性) → 仲間の意見を聞き、助け合う
- 3 前向きな態度 → 難しくても「やってみよう」と挑戦
- 4 決断力 → 迷ったときに判断する勇氣
- 5 お手本になる行動 → あいさつ・時間を守る
- 6 コミュニケーション力 → 話す+聞く力、相手の気持ちを理解、みんなの声を聞く



## グループからチームへ

「グループ」とは、ある目的で集まった人々、単なる集団で、1つのことに対して同じ作業をします。「チーム」とは、個々が持つスキルや能力経験を集めて、個人で行うよりも効果を生むことができる集団それぞれ違う役割を担って作業をします。

生徒会は是非、「チーム」を目指してほしいと思っています。そして「効率よく作業をして、良い結果を残せる、効率が良いことはもちろん、参加したメンバーそれぞれの満足度が高く、勉強になった、学ぶことが多かったと感じるチーム」を目指してほしいのです。

## どのように仕事を進めるか

ある企業の資料からです。生徒会の仕事ではこうあってほしいと思います。これは生徒会に限らず、これからの社会を生き抜く中学生に是非知っていてほしい内容です。

### 仕事の効率を上げる6つの方法

- 1、目標を設定する
- 2、優先順位を決める
- 3、得意な仕事から始める
- 4、整理整頓をする
- 5、時間を区切る
- 6、仕事を抱えすぎない

### 仕事ができる人

- 1、仕事の全体像を把握している
- 2、与えられた仕事を細かいタスクに分割できている  
※タスク：目的を達成するために必要な作業や業務
- 3、仕事の優先順位付けができている
- 4、困ったときには周囲の人の力を借りる
- 5、仕事の効率を上げるツールを使う

## 仕事ができない人

- 1、期日内に終わらせるための計画が立てられない
- 2、周囲に振り回され、計画通りに仕事を進められない
- 3、自力で解決しようとして、周囲に助けを求めない



## 生徒会の仕事をうまく進めるために

- 1、全体の仕事と個人の仕事を適切に分担して進めてほしい
- 2、これまでの伝統と自分たちの次につながることを意識して、文書の保存と記録を確実に行ってほしい
- 3、ミスは必ずあるものと考え、ミスがあっても慌てることのないように、仕事の期限にゆとりをもたせるために、準備を早めに始めてほしい。ミスがあってもその人を攻めることなく、みんなでどう乗り切るかを考えることが組織の力である。
- 4、情報を全員が確実に知るために、こまめに確認と共有をしてほしい

この話の最後で「ミス」について話しました。これまでは、「ミスはしてはならない」「そのために用意周到な準備をするべきである」等の考え方が優先していたと思います。もちろん、あることを成し遂げるために準備をすることは大切です。しかし、ミスや失敗を恐れるがあまり、本来の力を発揮できなかったりすることはないでしょうか。



今の時代は、「ミスは起こりうるもの、ミスがあったとしてもみんなでそれに対処する力が組織にあるかが求められている」という考え方です。アメリカの研究では、「優秀で成果を上げている集団にはミスが少ないわけではない。むしろミスが多い。そのミスをどう生かしていくかが問われている」という発表もあります。「心理的安全性」と言われ、心理的安全性が確保された集団こそが成果を上げると言われています。心理的安全性が確保されていると、「ミスをしてしまった」などといった言いにくいことも迅速に共有できたり、新しいことに挑戦しやすくなったりします。結果としてチーム全体の成果も上がると言われています。